

\*聖書にはしばしば逆説が現れる。「貧しい者は幸い」「自分の敵を愛しなさい」「一粒の麦がもし死ねば豊かな実を結ぶ」などなど。真理はこの世の常識とは逆であることが多い。「いのちから死へ」が普通の流れであるが、聖書は「死からいのちへ」を説く。

\*エペソの信徒は死んでいた。(エペソ 1 : 1 ~ 2)

彼らは「罪過と罪の中に死んでいた」。「罪過」は外に出た悪い行い、過ち、「罪」は心の中にある悪い思いと解釈してよい。実際に彼らは「この世の流れに従い」「不従順の子らの中に働いている霊(悪霊)に従って」「自分の肉の欲の中に生き」「肉と心の望むままを行い」。「世の流れのままに」生きることは一見楽なように思われる。しかし、それは間違った、危険な方向に向いていることが多い。また、皆が自分の欲望のままに生きると人間関係はうまくいかないし、様々な問題が起こる。エペソの信徒は靈的に死んでいた。

\*パウロも、私たちも死んでいた。(エペソ 1 : 3)

パウロ自身もかつては、「罪人のかしら」と呼ぶくらい罪の中にいた。時代の流れに沿って、伝統と律法と慣習に従いながら生きていた。それに異を唱えるイエスを信じる者たちを迫害していた。「ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」(2 : 3 後半) 私たち人間は誰でもアダムとエバから遺伝子をもって、生まれながらに、神の命令を守らず神から離れようとする性質を持っている。

\*キリストによって生かす道を示された。(エペソ 2 : 4 ~ 5)

私たちの靈魂の死とは、神と交わりが持てない状態にあること。そのままではさらに最後の審判の時に永遠の死に至ることになる。そこで、神は、「罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」(エペソ 2 : 5) 「罪の奴隷」の状態は、自分でどんなに努力しても抜け出せない。罪は重すぎて償い切れないのである。そこで、神の方から一方的にイエス・キリストという助け船を出してくださった。また、天から十字架を下して、これにつかまりなさい、と仰ってくださったのである。一点の罪もない方が私たちの罪を肩代わりして犠牲になってくださったことにより「いのち」が与えられるのである。このことを信じる者は「キリストと共に」死からいのちへと移されたのである。これは神の一方的恵みによるものであった。感謝したい。